

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873800290
法人名	社会福祉法人 西予総合福祉会
事業所名	グループホーム うつのみやさんの家
所在地	愛媛県西予市宇和町岩木1027番地
自己評価作成日	平成24年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家改修型であるため、家庭的な空間であり、居間は昔ながらの茶の間の雰囲気での生活の音、におい、人の気配が感じられる。
家の周りには、広い庭・畑があり、畑で出来る旬の野菜の収穫などを通し、季節を五感で感じる事が出来る。
出来るだけ、外気に触れるよう、散歩・草引き・日光浴など戸外での活動を重視している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●古い民家を改修した事業所で、玄関は土間で、段差の高い上がりかまちには、手すりが付いている。食事は、台所で食べるようになっており、居間から台所へも段差があるため、利用者は手すりを伝って席に着いておられた。敷地内の畑は広く、いろいろな野菜を作っておられ、よい季節には、利用者が草引きをしてくださる。建物の老朽化等から、来年7月に新築へ移転する予定となっている。
●職員は、利用者と一緒にスーパーや産直市に食材の買出しに出かけておられる。近くにコンビニができたことから、おやつを買いにもよく行かれる。
●利用者は、皆、お風呂がお好きで、事業所では毎日入浴できるように支援されている。毎日、午後からが入浴時間となっており、時にはじゃんけんして順番を決めることもあるようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム うつのみやさんの家

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

片山 弓子

評価完了日

平成24年8月29日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を全職員で共有出来るよう、目に付くところに貼っている。 近所の散歩や地域の行事には出来るだけ参加するようにしている。	
			(外部評価) 「一人ひとりの人格を尊重し、生き生きと地域の一員として生活できるよう支援する」という事業所理念は、「生きがいを見つけ、楽しく穏やかな生活を送れるよう支援する」という基本方針とともに、台所に掲示されている。法人内の異動で、4月に就任された管理者は、理念の実践に向けて「利用者のこれまでの生活習慣等も大切にしつつ、利用者個々が新しい環境の中で居場所を見つけて生活できるよう支援したい」と話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地元の行事(花祭り、盆踊り、運動会、秋祭り、小学校運動会)に積極的に参加している。散歩に行くと近所の方に声をかけていただき顔なじみの関係が出来ている。地域の有志の方に、年1回奉仕作業に来ていただいている。また、畑で採れた農産物を配ったり、頂いたりして交流をしている。	
			(外部評価) 年に一度、地域の方が、事業所の敷地の草刈りをして下さっている。事業所は、利用者と回覧板を回したり、野菜をおすそ分けし合ったり、近所の方達とおつき合する機会もよくある。7月に、事業所開所記念の「バーベキュー食事会」を行なった際には、地域の方も5名ほど参加して下さった。地域の盆踊りに出かけた際には、利用者も地域の方の輪に入り、踊りを楽しまれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議での話しか出来ていないのが現状。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回開催しており、事業所の取組みや意見交換を行っている。 利用者との交流(年1回のバーベキュー)や避難訓練などで交流している。</p> <p>(外部評価) 8名の地域の方に、「推進委員」として会議に協力していただき、会議には、区長、民生委員等、3名ほどの委員の方が参加してくださっている。管理者が交代して初めての会議時には、管理者が直接、地域の委員のお宅を訪問して案内をされた。事業所は、来年7月に移転することが決まっており、地域の方から「寂しい」との声があった。ご家族には、1名の方に案内をされている。</p>	<p>事業所のケアサービスをより具体的に知っていただけるような会議内容に取り組み、意見や要望を引き出していただけるよう、工夫を重ねていかれてほしい。移転後は、地域との関係作りに会議を活かして、地域資源の開拓に努めていかれてほしい。又、現在の地域の方達との関係継続の取組みにも、会議を活かしていかれてはどうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き現状を報告している。</p> <p>(外部評価) 市の担当者は、運営推進会議に参加してくださっており、介護保険制度について説明していただいたこともある。年2回、介護相談員の訪問を受け入れておられ、今年度は、9月・12月に予定されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束をしないケアを実践している。 勤務人数の都合で安全面を配慮し外に出ないよう口頭でお願いする場合もある。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、玄関は網戸になっていた。「外に出たい」気持ちのある利用者の方には、職員と一緒に散歩に行ったり、庭の池の鯉に餌をやる等して、気分転換できるよう支援されている。現在、入居間もない利用者の方の居室の襖に鈴を付けて、夜間、トイレに行く時等、職員が「気付けるように」されているが、ご本人はトイレまで迷う様子がなく、近々鈴を取り外すことを考えておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあり得ないという認識を全員持っている。今年度は勉強会を実施出来ていない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、必要な利用者がいないので、支援出来ていないのが現状。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が説明を行い、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) コミュニケーションのとれる利用者とは、管理者が普段から1対1で話せる時間を設け、会話の中から求めているニーズを探り出すように努めている。 家族とは、面会時の話し合いや電話連絡などで意見の反映出来るよう努めている。 その他、介護相談員の受け入れを行なっている。 (外部評価) 昨年は、年2回、事業所便りを発行されたが、昨年10月発行後から休止の状態である。ご家族へは、3ヶ月に一度、利用者個々の担当職員からご本人の暮らしぶりや近況を記した手紙を送付されており、その中には「ご意見・ご要望がありましたら遠慮なくお申し付け下さい」と一言添えておられる。	
				ご家族に、事業所のサービス内容や取り組みを具体的に情報提供できるよう工夫して、さらなる理解や協力につなげていかれてほしい。又、運営推進会議への参加も積極的に働きかけて、ご家族の意見や要望を引き出せるよう取り組まれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で話し合い、意見や提案を聞くようにして、出来ることから改善している。	
			(外部評価) 今回の自己評価は、項目によっては、職員個々に取り組み、又、職員会時に、全職員で意見を出し合い、管理者がまとめられた。現場職員からの意見や提案をもとに、廊下に手すりを付けたり、トイレに柵を作る等されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 1年間を通じて、法人自己評価シート(自己評価・目標達成項目・要望)を個人で記入し、施設長に提出して人事考課に反映させている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会の参加をしている。 法人内:遊愛研修 法人外:GH連絡協議会の研修、実践者研修、県老人施設協議会主催の研修 今年度は、研修に参加出来ていないのが現状。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) GH連絡協議会の研修に参加しネットワーク作りに生かしている。 今年度は、管理者が法人内のリスクマネジメント構築に関する勉強会に毎月出席して、他の老人施設のサービスを参考にしながらマニュアル作りをしている最中である。	
			(外部評価)	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 表情の変化や行動等に注意し、話を傾聴することで不安要素を見つけ、すぐに対応できるよう心掛けている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、担当ケアマネ・家族・本人から情報収集を行なう。入所後も面会やTELがあった際には近況報告し、丁寧な対応が出来るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前の情報をもとに、環境や生活状況の変化に配慮し、職員間の連携をとって対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとり出来ることを見付け、役割分担をすることで、役に立っている！と頼られているということを実感してもらえるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設に面会に来ていただくだけでなく、通院介助や外出等で施設以外の場所で過せる時間を作っている。職員側からは、3ヶ月毎のお便りを発行し、面会時に近況報告を行なうよう心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人が訪ねてくる事は少なくなったのが現状。 住んでいた自宅まで外出したり、身内が入所している施設に遊びに行ったりしている。 遠く離れた家族から便りがあった時には、近況報告がてら写真付きハガキを送り、つながりを継続出来るよう支援している。 (外部評価) 遠方に住むご家族も複数おられることから、今夏は利用者の写真を載せて、ご本人が一言メッセージを書いた暑中見舞いを出された。「家に帰りたい」という気持ちが強い利用者 職員は、時々ご自宅に戻ってタンスを整理する機会を作り、同行されている。身内の方が入居している他グループホームに、職員が付き添って会いに行かれることもある。現在利用者は、事業所の所在する地域外から利用されており、管理者は今後、「ご自宅のある地域の行事に参加する等して、馴染みの場との関係が途切れないよう支援していきたい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共通の話題を提供したり、みんなでゲームや役割分担することで楽しく過せる時間を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設に転所された方に会いに行きたい希望はあるが、まだ実現出来ていない。 ご家族とは、退所されてしまうと疎遠になっているのが現状。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いをケアプランに反映できるように日々努力している。 一対一になり、話やすい環境を作って、本人の思いを引き出せるように努めている。 (外部評価) 入居時、ご家族からこれまでの暮らしぶり等を聞き取り、アセスメントをされている。さらに入居後、2~3ヵ月経ってから、職員の気づき等を、赤字で付け加えるようにされている。たとえば「好きな音楽・番組」については、入居時、ご家族から「時代劇、歌も好きでテレビを見ていた」との情報があり、入居後、「動物や子供が出る番組を喜んで見られる」と職員が情報を付けて加えておられた。希望や意見を言葉に出すことが難しい利用者の方には、「日記を書く」ことを支援して、思いを探ることに努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時や面会時など、家族から情報を得るようにしている。本人からも、普段の生活の中から思い出されることもあるので、興味を持って話を聞くようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 何をしているか、何をしようとしているのかを、よく観察する。表情の変化や、スキンシップをとることで、状態の変化に気付く時もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			職員会で話し合い、計画を作成する。本人、ご家族の参加は出来ていないのが現状。意見の言える利用者に関しては、日頃のご本人の発言や要望をケース記録に記入して反映させている。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時や電話にて、利用者の暮らしやケアについての要望をお聞きして、又、職員会時に出された職員の気付き等を採り入れて、介護計画を作成されている。計画は、3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しにつなげておられる。	さらに、ご本人の思いや意向をもとに、理念や基本方針にも沿った支援が実践できるよう、介護計画の作成に工夫されてほしい。ご家族もケアパートナーとして、ともに利用者の暮らしを支えていけるよう、一緒に介護計画を作成したり、モニタリングするような機会も作ってはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			ケース記録に本人の過ごし方、心身の現状を記入して参考にしている。特に体調の変化には注意し、職員間の情報を共有出来るようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			通院介助など、ご家族の協力で成り立っていることもあるが、遠方の方に対しては全ての事に対応している。いろいろなニーズに柔軟な対応をし、出来る限りの事は支援していきたい。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域資源を十分に活用出来ていないが、家族や地域の方達の協力により地域の中で生活が継続出来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前のかかりつけ医を希望されている利用者に関しては、ご家族が付き添っていただいている。ご家族の付き添いが困難な方に関しては、協力病院の対応としている。	
			(外部評価) 以前からの主治医をかかりつけ医とされる方については、月に1度、ご家族が付き添って定期受診をされている。協力医療機関をかかりつけ医とされる方については、体調に変化がある時は電話にて医師の指示を仰いで対応するようになっている。夜間については、協力医療機関での対応が難しく、緊急時は救急車を呼ぶようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員の配置なし。 今年度入所した方(1人)に関しては、かかりつけ病院の訪問看護が月1～2回来られ、相談・連携をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には、利用者の基本情報を持参し、スムーズに入院加療が出来るようにしている。 入院中は、定期的に様子伺いをし、ご家族・病院から情報を収集している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) NS配置がないので、入所時に重度化になった場合の対応をご家族に説明し理解いただいている。 出来る限りのことは支援しているが、建物の状況(段差の多い日本家屋から、車椅子が常時必要になれば、このGHでの生活が困難になる為、次の転居先をご家族と話し合いながら決めている。	
			(外部評価) 入居時に、事業所は、古民家を改修した建物で段差が多いことから、「車椅子を利用する状態になった場合は対応が難しい」ことや「医療が必要になったら事業所での対応が難しい」ことをご家族に説明しておられる。又、管理者は、今後、「看護師の配置等、重度化や終末期支援ができるような体制」を整えていく必要性を感じておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 母体施設での研修・救命講習、避難訓練を行なっている。受診を要しない軽い傷などの処置方法に関しては、職員会で勉強している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は、近隣住民の方にも参加していただき実施している。 地震対策に関しては、今後検討していきたい。	
			(外部評価) 他県でグループホーム火災が発生した際の消防署の点検調査において、アドバイス(指摘)があり、今年7月には、事業所内の壁を防火壁に替え、ガスコンロも、IH調理器に取替えられた。又、居室の窓から外へ出られるよう「すべり台」を取り付けて、避難経路を確保されていた。9月には、消防署の協力のもと、夜間の火災を想定した避難訓練を実施する予定になっており、区長や地域の方も参加して下さるようになっていいる。事業所は、今年度、法人と一緒に非常食の備蓄等、地震対策について具体的に検討を行っているところである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室する際には、声かけを行ったり、プライドを傷付けないよう言葉づかいや対応に気を付けている。	
			(外部評価) 職員は、利用者への「声かけと観察」を大切にして、利用者が「今どうしたいのか」を探ることに努めておられる。調査訪問時の昼食時、食事介助する職員は、ゆっくりとした態度で言葉かけ等して、利用者の笑顔も引き出しながら介助されていた。職員は、「ご本人のペースに合わせて介助することで、味わって楽しく食事していただきたい」と話しておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の意思を大切にし、自己選択出来るよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 何をしたいのか希望を聞いたり、こちらから提案してみたり、本人の意思を尊重している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服選びを一緒にしたり、髭剃り・爪切りはこまめに行なっている。女性の方は、マニキュアしてオシャレを楽しまれる事もある。希望者に関しては、一緒に買い物に行き、洋服を選んでもらう。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来ること、出来ないことを見極め、野菜の収穫、食事の下ごしらえ、食器拭きなどを手伝っていただく。 (外部評価) 牛乳と豆腐は、週3回配達してくれるようになっている。又、魚は、週3回、車で行商が来てくれ、旬の新鮮な魚が手に入るようになっている。野菜は、近所の方からいただいたものや産直市で買ったり、事業所の畑のものを使って調理されている。献立は、その日の調理担当職員が、冷蔵庫等の食材や利用者の希望を聞いて決めておられ、調査訪問時の昼食は、近所の方からいただいたかぼちゃで煮ものを作っておられた。食事時、職員は「近所の方からもらったかぼちゃですよ」と利用者へ伝え、みなで味わっておられた。利用者は、かにかまぼこを裂いたり、もやしの根とり、きゅうりのスライス等、できることを行っておられる。「ごぼうのかき揚げが食べたいね」と利用者から希望があれば、その利用者と一緒に調理ができるよう支援されている。調査訪問時、ご自分の食器を下膳する方や、職員が洗った食器を拭く方がみられた。「朝食にパンが食べたい」という希望があつて、春頃から毎週土曜日の朝食はパン食になっている。以前から、昼・夕食のおかずの一部を翌日の朝食に付けるような仕組みとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 野菜を多く使いバランスも考えている。水分補給、夏場は特に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々の状態により支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の希望をもとに、自尊心を傷付けないよう一人ひとりに応じた排泄介助を行なっている。自力でトイレに行けない方も、排泄誘導している。 (外部評価) 「心配なため」ご本人の希望で紙パンツを使用している方もありますが、排泄が自立している利用者がほとんどであり、個々が廊下を歩いてトイレに行かれている。トイレが狭いこともあって、「立位が困難で介助の必要な利用者」は、居室にポータブルトイレを置き、使用されている。利用者の排泄については、今後もご本人の希望やプライバシーに配慮して「排泄の自立」に向けた支援に努めていかれてほしい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 起床時の冷乳、冷水を提供し、運動・食物繊維を含む食材を取り入れ便秘予防している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調に合わせて、毎日の入浴を行なっている。どうしても日勤者のいる午後入浴となっている。気持ち良く入っていただけるように入浴剤を使ったり、一人ひとりに合わせた温度調節をしている。 (外部評価) 利用者は、皆、お風呂がお好きで、事業所では毎日入浴できるように支援されている。毎日、午後からが入浴時間となっており、時にはじゃんけん順番を決めることもあるようだ。洗髪や背中を洗う時は職員が手伝うこともあるが、洗えるところはご本人が洗えるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も、本人の希望や体調により自室で休養したり、居間でウトウトすることもある。それ以外は、出来るだけ日中の活動量を増やし、夜間の安眠に繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を確認し、内服薬の把握している。 薬に、日付・名前を記入し、誤薬防止・投薬忘れに気を付けている。 日誌に投薬済みのチェックをして確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに応じた役割(洗濯物干し・畳み、掃除、食事準備等)や、出来る方に関しては、草引き・縫い物などを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人希望の買い物外出(職員付添)や、自宅外出を行なっている。 地域の行事や、季節行事などにも参加している。 (外部評価) 職員は、利用者と一緒にスーパーや産直市に食材の買出しに出かけておられる。近くにコンビニができたことから、おやつを買いにもよく行かれる。法人施設の「納涼祭」には、3名の利用者が出かけ、盆踊りに参加したり、かき氷を食べる等された。日常の中では夜の外出が少ないことから、利用者は「よかった」と喜ばれたようだ。7月は、市内の観音水のそうめん流しに出かけられた。又、季節に応じて、れんげやつつじ等、お花を見にドライブされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理することが困難な為、本人・家族の承諾を得て預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 贈り物が届いた際には、お礼のTELやハガキを出している。 写真付き暑中見舞いを作成し、出来るだけ本人に一言・名前を書いてもらうようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 建物の構造上からも、生活観・季節感は常に感じられる環境である。 夜間はトイレまでの廊下に感知式のライトを付け、安全に移動出来るようにしている。 窓を開けて、いつも風が通るようにしている。</p> <p>(外部評価) 古い民家を改修した事業所で、玄関は土間で、段差の高い上がりかまちには、手すりが付いている。居間のソファに座ってテレビを見たり外の景色が眺められるようになっていて、扇風機がまわり、うちわを使って涼む方もみられた。午後からは、風船バレーを楽しまれており、利用者と職員の笑い声が聞こえてきた。食事は、台所で食べるようになっており、居間から台所へも段差があるため、利用者は手すりを伝って席に着いておられた。敷地内の畑は広く、いろいろな野菜を作っておられ、よい季節には、利用者が草引きをしてくださる。建物の老朽化等から、来年7月に新築へ移転する予定となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 相性が合う、合わない等の問題や、TVの距離、出入りのし易さなどを考慮し居間の座席を決めている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) タンス・位牌等を持ち込まれる方がいるが、馴染みのものを持ち込まれる方は少なく、入所時ほとんどの方は、新たに購入して持ち込まれている。</p> <p>(外部評価) 居室は、それぞれに間取りが違っており、毎日、ご自分で布団を上げ下げする方もいる。ハンガーに数種類の帽子をかけておられ、外出時にはご自分で選んで被り、出かける方もある。利用者が職員と一緒に作った折り紙細工や、ビーズアクセサリーを飾っておられたり、壁には、ご家族の写真や誕生日に職員がプレゼントした写真入りの色紙を飾っておられた。位牌や遺影を持ち込まれている方もあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 自分の部屋が分かりように名札をつけたり、段差には手すりを付け移動しやすくしている。夜間のトイレも、センサーライトを付け、安全に移動出来るようにしている。</p>	